

(様式第2号)

パブリックコメント実施結果

件名

担当課

意見の募集期間 令和5年1月13日から令和5年2月13日まで
意見提出者数 1人(持参 0人、郵送 0人、FAX 0人、電子メール 1人)
意見提出件数 7件

意見の概要と市の考え方

反映区分	A：計画等に反映させるもの	4件
	B：計画等に反映済みのもの	件
	C：今後の参考とするもの	件
	D：計画等に反映できないもの	件
	E：その他の感想や質問など	3件

〔項目名 (施策等の案の項目別に整理すること) 〕

番号	意見の概要	意見に対する市の考え方	反映区分
1	基本目標1：「夢と自信をもち、可能性に挑戦する力を育てる」が、基本目標1となっていることは大切なことである。	子どもたち一人ひとりが自信をもち、夢や可能性に挑戦していけるよう支援をしていきます。	E
2	主要施策3：学校をスリム化することにより生まれる教職員のゆとりが、児童生徒の知的好奇心の喚起に寄与するという展開はわかりにくい。	子どもと向かい合う時間の確保が、児童の意欲や知的好奇心の喚起につながることをわかるように、「教職員が子どもと向かい合う時間を確保し」の後に、「教育活動や授業の計画・実施・評価を充実させ、個々の学習状況等を的確に把握し、子どもの興味関心を高めるための指導方法の工夫改善を行うことで」を追記します。	A
3	主要施策4：「人間が本来もっている野性的な感性」とは何か。丁寧な説明が必要ではないか。	「(野性的な感性を呼び)起こしたり、五感を通じた感動体験など豊かな体験活動を充実させたりする。」と下線部を追記します。 宍粟市の自然を野生に戻ったように五感を使って感じて欲しいと考えています。	A

4	主要施策7:「宍粟を愛し 宍粟を活かす」教育課程の創造は、人口減少問題をかかえる宍粟市にとって重要な施策だと考える。	子どもたち一人ひとりの心の中にふるさと宍粟への愛情や愛着を育み、ふるさと宍粟の発展に積極的に関わる人材を育てていきたいと考えています。	E
5	主要施策9:「人は人と触れあい初めて人となる」は誰の言葉なのか。	前期基本計画策定委員会協議の中で、意見として出された言葉です。	E
6	主要施策14: 人権教育の推進が人権感覚に特化している印象である。「知的理解」「人権意識」は、言葉として外せないのではないか。	ご意見のとおり、人権感覚に特化しているので、リード文に「子どもたちが人権の基本的な知識を学び、理解する(知的理解)」ことと、「意識や態度を実際の行為に結びつける実践力や行動力を育成していきます(人権意識)」を追記します。	A
7	主要施策14:「痛みや苦しみを共感し」とあるが、「痛みや苦しみに共感し」ではないか。	「苦しみを共感し・・・」の「を」を「苦しみに共感し・・・」に訂正する方がよいが、後半を「共感的に受けとめるような・・・」に変更したため、「苦しみを共感的に受けとめるような・・・」としています。	A